

社会の発展と生産性向上にヘルスケア（健康管理）の果たす役割は大きい。課題も多い。解決のための科学は進歩しているが、課題の深刻になる速度はそれより大きい。

新興国はエボラ出血熱など感染症の脅威にさらされるなど公衆衛生が悪化している。地域の実情に合った解決法が求められる。我々はブラジル

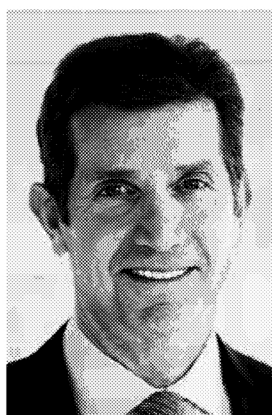
ではジカ熱と戦うヘルスワーカーの訓練を支援している。

貧しい子供が医療サービスを受けられないことも問題だ。出産時に主に母親に衛生面や感染症予防、授乳の指導を行うことで多くの命を救えることがわかっており、対応が急務だ。

先進国は高齢化に直面している。多くの人がヘルスケア・システムに頼り、すでに制約が生じている。質の高いヘルスケアを手ごろな価格で

## グローバルオピニオン

米ジョンソン・エンド・ジョンソン最高経営責任者  
アレックス・ゴースキー氏



Alex Gorsky 米陸軍士官学校卒。ペンシルベニア大ウォートン校経営学修士。1988年ジョンソン・エンド・ジョンソン入社。2012年から現職。56歳。

# ヘルスケア、世界で成長

### 日本の高齢化、商機に

英の欧州連合離脱決定後、ジョンソン・エンド・ジョンソンの株価は最高値を更新。主要格付け会社すべてで最上級トリプルAは米国で同社を含む2社だけで、米国債より高い信用力が評価された。背景には短期的利益だけでなく将来をにらんだ年1兆円近い研究開発投資がある。その目利き力が54年連続の増配やトヨタの2倍近い株式時価総額につながっている。高齢化を商機ととらえ日本でも拡張をうかがう姿勢は、高齢化を悲観し内部留保を積み上げる日本企業と対照的だ。（編集委員 太田康夫）

は疾病ケアから健康維持に移りつつあり、科学、技術の発達を活用してそうした動きに対応していく。

特に技術は重要だ。勝ち抜くため研究開発（R&D）をリードしなければならぬ。過去5年R&D投資を増やし続け、15年は90億ドルを投じた。それと並び重要なのが「（企業を）探して発展させる」とことだ。内部ですべての解決法を持つとするより、技術を持った企業や革新的なスタートアップ企業を買収したり提携したりする必要がある。

最上級トリプルAの信用も欠かせない。利益を慎重かつ透明に使うことが大切だ。信用力の高さは財務の柔軟性を確保し、企業価値を高めるきっかけを与えてくれる。長期的価値を重視し、明確な目標を設定する経営が高成長を生み出すと考えている。

提供することが社会の最重要の課題だろう。

高齢化が進む日本では活力低下が指摘されるが、多くの国際特許申請や新商品開発につながった科学力がある。それは今後も変わらないとみており、我々は引き続き日本へ

力を入れる。2014年には、川崎市に医療従事者が当社の内視鏡手術用など医療機器の適正で安全な使用に関する研修を受けられる東京サイエンスセンターを設けた。

多くの既往症を有する高齢者は転倒による大腿骨骨折など筋骨格系疾患で寝たきりになり生活の質が落ちやすい。欧米では多職種が連携して早期手術を行い寝たきりにさせない対応が重視され、そのため異なる診療科の医師、看護師、ケアマネジャーらがチームを組み動きが広がっている。

世界の高齢化産業は今後5年間、年率3〜5%で伸びるだろう。当社はヘルスケア大手で、解決策の提供が求められている。取り組みの力点

る。我々は日本でもそうした対応について関係者へ働きかけを始める。我々は日本でもそうした対応について関係者へ働きかけを始める。我々は日本でもそうした対応について関係者へ働きかけを始める。